

Introduction

～ まちの人紹介 ～



地域おこし協力隊 観光支援員

ながふち りょうた
長 瀧 亮 太 さん



「地域内外の人が楽しめる面白いことを考えていきたいです」と話すのは、6月から観光支援員として観光協会に勤務する中標津町出身の長瀧亮太さん。

専門学校を卒業後、地元である中標津町役場に採用となり、観光振興などの業務に5年間務め、その後、自身の見聞を広めるために上京。約4年を東京で過ごし、地元の北海道で観光の仕事に携わりたいという気持ちから転職を決意され、観光業務の経験があったこと、見知らぬ土地の魅力発見からはじめたいと考え、観光支援員の募集を行っていた雄武町に応募されたそうです。

「今は、6月29日、30日に開催され

る産業まつりに向けた準備を行っています。SNSなどを通じて地域外へPRをしたり、雄武町の皆さんが地元の良さを再確認することができると活動の心掛けていきたいです」とこれからの目標について力強く話してくれました。

「雄武町に来たのは初めてなので、1年目は雄武町を知り、地域に溶け込めるように、イベントなどには積極的に参加して、町民の皆さんとお話をしながら、自分なりの観光支援を考えていきたいと思っています。お会いしたときは気軽に話しかけてください。是非よろしく願います」と笑顔を見せてくれました。

長瀧さんの今後の活躍に期待です。

雄武町民憲章（町民の誓い）

雄武町民わたしたちは、オホーツクのきびしい自然を生き、父祖・先人の労苦を感謝しながら、郷土愛にみちた町づくりと、ひとりひとりのしあわせのため、一すこやかに、なごやかに、まめやかに一励まし合い、希望と自信をもって、生きがいある生活につとめ、たしかな未来につながる信条をかかげて、朝夕守りとおすことを誓い合います。

- 一、自然を生き、住みよい環境をつくります。
- 一、きまりを守り、明るい社会をつくります。
- 一、ともに助け合い、楽しい職場をつくります。
- 一、元気に働き、豊かな家庭をつくります。
- 一、希望に生き、たくましい雄武町民となります。

昭和 46 年 3 月 19 日制定

❖編集後記

Editor's note

▼今回は、小中学校3校の運動会に取材に伺いました。全日とも快晴、とまではいきませんが中止や延期にならず良かったと思うとともに、児童生徒が練習した成果を保護者にみせる姿には元気を分けてもらいました。ようやく雄武の夏も本格的になってきたので、この子どもたちの元気に負けず、元気に夏を乗り越えていきたいです。（松井）